

2009年度全国典礼担当者会議資料（2009年9月8日）
プレゼンテーションV「年間と主の祝祭日」
宮越俊光

1. 「年間」とは

- ①固有な特質を持つ期間を除く 33 ないし 34 の週
→ 「キリストの神秘全体を追憶」（『典礼暦年と典礼暦に関する一般原則』43）
- ②期間：1月6日直後の主日の翌日の月曜日～四旬節前の火曜日 + 聖霊降臨主日の翌日の月曜日～待降節第1主日「前晩の祈り」の前（同44）
- ③名称の変更
 - ・第2バチカン公会議前：四旬節前を「公現後第〇主日」、復活節後を「聖霊降臨後第〇主日」（8世紀以降の「秘跡書」の流れ）
 - ・第2バチカン公会議後：二つの期間を一つの季節と考えて「年間」（Tempus «per annum»；The season of Ordinary Time）→ 季節としての統一性、継続性

2. 「年間」の典礼の特徴

- ①最も長い「典礼季節」：*Missale Romanum* 規範版では「季節（Tempus）」の扱い
- ②典礼色：緑
- ③主日の聖書朗読
 - ・福音朗読：A・B・C年の3年周期の準継続朗読によって各共観福音書全体を朗読
→ 各福音書の思想との調和（同105）
 - ・第一朗読：福音朗読との主題調和、新約と旧約の一貫性 → 主題句の役割（同106）
 - ・第二朗読：パウロの手紙、ヤコブの手紙、ヘブライ人への手紙の準継続朗読
- ④週日の聖書朗読
 - ・第一朗読は2年周期、福音朗読は1年周期の準継続朗読

3. 「年間」に祝う主の祝祭日

- ①祭日：三位一体（1334年）、キリストの聖体（1264年）、イエスのみ心（1856年）、王であるキリスト（1925年）
→ 教義や信心の発展との関連・第二千年紀に入ってから導入（=Feasts of ideas、教義祝日、理念祝日、主題祝日）、移動祭日
- ②祝日：主の奉献（2/2；4世紀東方）、主の変容（8/6；5世紀東方）、十字架称賛（9/14；5世紀東方）
→ 古代の東方教会が起源、古代末～中世期に西方教会に

4. 留意点

- ①主日（＝根源の祝日）の本来のあり方を考える期間
- ②顕現周期・過越周期、および「年間」中に記念する祝祭日との関連づけ
- ③主の宣教の始めから終末主日に至る「年間」全体の一貫した流れ